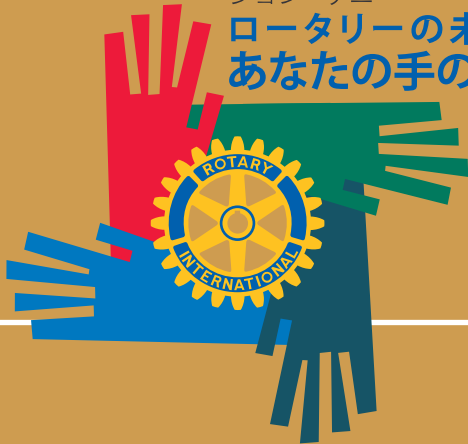


2009~2010年度 国際ロータリーのテーマ  
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は  
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

# 留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

## 親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

### プログラム

- 本日
  - 会員卓話「雑誌月間にちなんで」  
平井誠治 委員長
  - 会員誕生日
    - 4月21日 武井 哲
    - 4月26日 齊藤 清蔵
- 次週予定
  - 会員卓話 商工会議所青年部  
会長 申橋伸幸 会員
  - ご夫人誕生日  
4月23日 佐藤とめ子

No. 2415

第38回 4月21日

出席報告

前例会

会員総数	44名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	34名
出席率	80.95%

前々会

第34回 3月17日

出席会員	35名
メイクアップ	2名
修正出席率	83.33%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

### 🔪 会長報告 .....

- 4月5日定例理事会を開催し、次の件を承認いたしました。①4月例会プログラム、②3月末収支決算、③4月11日開催のIMの件、④GSE受け入れのスケジュールについて、⑤新会員について。

### 👤 委員会報告 .....

IM実行委員会 河部委員長  
いよいよあと4日後の4月11日(日)にIMが開催されます。そこで、本日例会終了後に各役員、委員長さんに集まっていただき、最後の確認をしたいと思います。よろしくお祈りします。

### 📖 幹事報告 .....

- 1) 5月22日(土)に開催の砂川RC創立40周年記念式典の案内を受領しました。出席希望者は幹事まで。
- 2) 小平RCより例会休会の案内を受領、4月9日(金)の例会はIMに振り替え休会。

### 🌐 国際奉仕委員会 大嶋委員長

本日朝に変更になったGSEのスケジュールを皆様にFAXで流しましたのでよろしくお祈りします。また、4月9日午後2時19分のJRでGSEメンバーが留萌に到着します。出迎えに来れる会員さんは、午後2時にお集まりください。それと、GSEメンバーと一緒に研修に参加したい会員がいましたら、早めに私の所へ申し出てください。

### 3分間情報 .....

会員研修委員会 平井委員長  
「GSEについて」

GSE (Group Study Exchange) 研究グループ交換は、ロータリー財団の教育的プログラムの一つであり、地区内の若い職業人を海外に派遣し、職業・文化・親善の分野で国際理解を進め、その異文化体験の成果を広く地域社会に還元できるように支援するものである。

活動内容は次の三点。

- ① 訪問地区の職業の実践状況を視察し、意見交換を行い、チーム各メンバーの専門職務の技量と指導力を高める。
- ② 訪問地区の住民との交流や施設見学を通じて、その国・その地域の文化について理解を深める。
- ③ 訪問地区のロータリアン並びに受入家族との永続的な友情と相互理解を深める。

主なる実施条件は次の通り。

- ☆国を異にする二つの地区がペアを組んで行く。
- ☆ロータリアン以外で、職業に携わる年齢25歳～40歳の人物4～6人を選び、チームリーダーにロータリアン1人を加えて1チームを編成、相手地域に派遣する。
- ☆チームメンバーは、当該地区内に居住、または勤務している者であること。
- ☆チームリーダーは、ロータリーに精通し国際奉仕において経験豊かなロータリアンであること。
- ☆派遣もしくは受入期間は4～6週間である。
- ☆費用は往復旅費のみ財団が負担、訪問チーム滞在中の食費、旅費、宿泊費、視察費等は受入地区が負担する。
- ☆チームは可能なかぎり、地元ロータリアンの家に滞在する。

1965年発足以来、全世界の参加チーム総数は約14,000チーム、日本から海外を訪問したチームは、430チームにのぼる。(2009年6月現在)  
この4月、当地区が受け入れるRI2360地区

スウェーデンからの受入チームは不特定の職業の方々であるが、一方、当地区から5月に福祉先進国のスウェーデンに派遣となるチームは、福祉・介護に関する職業の方々で構成され、そのチームリーダーは札幌真駒内RCの丸山パスト・ガバナーが務める。(ガバナー月信11月号)

### ニコニコBOX .....

- ・観光協会のPRをさせていただきます  
対馬会長
- ・風邪も少し良くなりました  
中出幹事

前回	682,000円
今回	4,000円
累計	686,000円

### プログラム .....

「商品開発を通して留萌の地産地消と  
留萌の魅力と観光について」

留萌観光協会副会長 安達 利子様

本日は例会にお呼び戴きありがとうございます。これまで対談や2～3分のお話であればしたことがありますが、この様に留萌を支えていらっしゃる皆様の前でお話する事は初めてです。大変緊張しております。しかし、今は隣りに対馬会長や二ノ宮さんが居りますので、少し落ち着きを取り戻しました。

さて今日は、まず初めに、お勝手屋「萌」のお話からさせていただきます。お勝手屋「萌」の自慢話を少々、その後に留萌の魅力と観光についてお話をさせていただきたいと思います。

ところで皆さんは、お勝手屋「萌」をご存知ですよね？知らないという方がいらっしゃれば大変ショックを受けてしまいます。「萌」の場所は駅前で、駅を背にし、最初の信号の角にあります。今年で12年目になります。「萌」が出来たきっかけは、NHKのすずらんというドラマがありまして、留萌市や観光協会が一緒になりSL運行協議会というのが立ち上がり、お土産屋とか、物産館という様な事で始まりました。

スタッフとして、私が59歳から12年を引いた歳から始め、周りのほとんどが同じくらいの年齢のおばちゃまスタッフで頑張っております。12年前からずっと携わってきまして何でこんなに頑張ってきたのかを考えてみましたら、観光協会や留萌市の方が、私たち女性の意見を聞いてくれて、「だいじょうぶじゃないか」「やってみれば」などと後支えがあったからだと思います。私たちの団体はそんなにお金のある団体ではありませんので、ケチケチ状態でお店をやっておりました。私は利益を生まないものに対しては新品を使わないというのが基本だと思っていますので、例えばダンボールを縛るとか、連絡のための用紙などは使用済みのものを使います。紐などは短ければ結んで使います。貰い物をしてスタッフで分ける場合、袋は新しいレジ袋はダメ、古いレジ袋を取っておいた物を使います。今では当たり前ですが、12年前はまだまだ浸透していませんでしたので「安達が来た」「安達に怒られる」等と言われていました。

この「萌」で扱っているカボチャの商品ですが、どうして考え付いたかと言うと、当時カボチャを作っている農家の方と出会いまして、規格外のカボチャは捨てられるという話を聞きまして、これを何とか商品に出来ないかと考えたのがキッカケです。4年間考えました。保健所に行ってどうゆう所で作れば良いか相談したところ、こさえるを使えばとのアドバイスを頂き、さっそく100キロのカボチャを仕入れました。これを手で全部潰し、ビニール袋に入れて冷凍しました。カボチャは秋採れますので、冬の間これを商品にするため色々考えました。そこで、このカボチャをうどん屋に持ち込んでカボチャ入りのうどんを作ってもらう事にしました。冬の間何回もうどん屋さんが試作をしてこのカボチャ入りの黄色いうどんが出来上がりました。次の年は何を作ろうか考えて、やはりお菓子だと思い、留萌中のお菓子屋に500グラム入りのカボチャのペーストの袋を5袋持ち込みお願いしました。その内の1軒が私たちの希望を聞いてくれて、作ったのがこのシフォンケー



キです。かぼシフォンと名づけました。先ほどのうどんはカボうどんです。そしてその次の年は何を作ろうかという事で、留萌のパン屋さんをお願いしてラスクを作りました。その次の年は羊かんを作りました。これは留萌の夕日をイメージして作りました。何回も何回も試作を繰り返しました。その次の年はクッキーを作りました。なぜこんなに新作を作るのかと言いますと、マスコミに取り上げてもらいたかったからです。マスコミに取り上げてもらうと、必ずお客さんが来ます。そういう意味で、毎年お客さんを増やす意味で新作を作りました。これら総て、今も売れています。このシフォンケーキは3月20日から10月末までに3000個売れています。こういう事の1つ1つがスタッフの達成感、よろこびとなって今まで続けてこれたのだろうと思います。

私たちはパッケージとカラベル等も自分たちで作っています。なぜ業者に頼まないかと言いますと、途中で気持ちが変わった時、売れなくなった時にはすぐ止めたいのです。業者に頼むと何千枚となり、ロスがでます。自分たちが作るのと業者に頼むのを試算すると、ほとんど同じです。ただロスが出ないのです。

それから、今ここにカマボコがあります。このカマボコにはタコが50%入っています。このカマボコが「たこたこ揚がれ」そしてプチニシンの「数ちゃん」これは留萌の数の子を使用しています。これは何処で作っているかと言うと名寄なんです。留萌の業者さんに無添加でこういう物を作ってくれないかとお願した所、出来ないとの事で悩んでいた所、二ノ宮さんに名寄でおいしいカマボコ屋があると聞いて直ぐに

## 第36回 4月7日(水) 天候/晴

電話をしたところ、二つ返事でOKしてくれました。今現在そこで作ってもらい、留萌のタコとカズノコを使った商品を販売しています。マスコミにも取り上げてもらいました。ラスクなんかは帯広から買いにきてくれました。本当にマスコミはすごいと思いました。

お土産のもう一つはストラップです。数の子ストラップで、留萌は数の子日本一なのに何も無いと思っていました。この数の子の思いは、4年間思い続けました。函館の地域ご当地ストラップという所で、確かに数の子のストラップもありましたが、値段が本当に高く、どう考えても700円位で売らなければならない商品なのです。ロットが1000個。700円が1000個なんて恐ろしくて仕入れることは出来なくて、300個まで頑張っ作ってくれるとの事から作る事になりました。事務局長に頼むよう指示をしたのですが、待てど暮らせど商品は届かないのでどうなっているかと思ったら、実は事務局長の海東がこのストラップが気に入らず注文をしていなかったのです。海東さんも悪いと思ったのか、ネットで色々調べてくれて、この「かずもちゃん」ストラップを作成してくれる所を探してくれました。数も500個からという事で、お陰で大ヒットしています。ちなみに1個420円です。今朝の北海道新聞に出ていましたがJRの駅の構内にバックパネルとしてJR留萌、かずもちゃんを入れて作ってくれました。これは市役所の企画課の方が作成したもので、市役所が留萌市の為に働くのは当たり前ですが、やはりやってくれた事に対してお礼を言うのが当たり前ですので、早速お礼の電話をいたしました。そんな事で、留萌青年会議所と千望高校の皆さんが作成した数の子の巨大オブジェもありますので、ぜひ皆様も留萌駅に見に行ってくださいと思います。

次に留萌の観光と魅力についてお話をいたします。「萌」は観光案内所も兼ねていますので、よそから来たお客様がどうして留萌を選んで来てくれたのかと、よく思います。ですから時間のある時は、「どうして留萌に来たのですか」とか「何か特別な用事があったのですか」などと

聞くことがあります。そうすると「何となく」「ふらっと」という答えがありました。私たちが聞いて大変うれしい答えもありました。「留萌の駅前においしいおにぎりがあると聞いて来た」という嘘のような本当の話がありました。そのおにぎりというのが「磯むすび」でして、数の子のつくだ煮とぬかニシンが入ったもので2個セット300円のものです。これをわざわざ札幌から買いにくるのです。留萌にずっと住んでいる人は「留萌には何もないよ」とよく言います。私はこれを聞くと悲しくなります。この景色とか、このおいしい海の幸、そして人情があります。やはりこれらを売りにしていかなければなりません。少しオーバーぎみに伝えた方が良いと思います。私たちは観光協会の人間ですから、宿の方とか食堂の方などにもよくお話をします。思い切り留萌の景色とか、海産物のおいさとかをPRして下さいと、お願いしています。それを聞いて誰も嘘だとは思わないからと言っております。けっこうお寿司屋さんなんかは心を込めてお客さんに接してくれています。もちろん宿の方もそうですが。観光で来た方で観光協会の案内所に来て「良かった」と言って帰る方もいらっしゃいます。時にはお叱りもいただきます。そういう時にはソッコーでそのお店にFAXで連絡を入れます。お客様の声として大切な事だと思います。人の口伝えというものは、良い事でもありますし、恐い事だと思います。

12年間観光というものに携わってまいりました。対馬会長が言う事にダメと言えるのも私たちだけではないかと思えます。しかし、後押しもしてくれます。だからこれまでやってこれたのだと思えます。これからもお勝手屋「萌」と観光協会をよろしく願います。